

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	東ティモール「小児むし歯予防プログラム」
(2) 実施団体名	アジア歯科保健推進基金 (A O H P F)
(3) 実施期間	2018年7月11日～2019年1月31日
(4) 実施国	東ティモール民主共和国
(5) 活動地域	ディリとその周辺地域
(6) 活動概要	
<p>① 活動の背景：</p> <p>2013年5月、在東京東ティモール大使 Mr. Isilio Coelho から東ティモールの子供たちの歯科保健向上に力を貸してほしいと依頼があった。11月に視察を兼ねて第1回現地訪問をして保健省関係スタッフと協議してプロジェクトがスタートした。2014-15年にディリ市内及び隣接するリキサ県、エルメラ県などで小学校学童、幼稚園児童の歯科健診を実施した結果、6歳未満児の90%以上が1人平均6本のむし歯に罹患しており、ほとんどが未処置であった。保健省で報告し、東ティモール歯科医師会(ADETIL)のセミナーでも予防の必要性を訴えた。120万人の人口に対して、歯科医師は約10人、デンタルナース50人のマンパワーでは、治療による対応で問題は解決しない。保健省に歯科担当課がなく、政策立案のできる歯科専門官がないことが最大の課題である。A O H P Fは、保健大臣と面談して今後の歯科保健対策について提案し、歯科医師会とのMOU(覚書)の締結、母子手帳への歯科保健の記載、妊婦や母親に対する歯科保健指導教材を作成することになった。</p>	
<p>② 活動の目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東ティモール歯科医師会(ADETIL)とA O H P Fのお互いの役割分担を確認し、MOUに調印する。 2) ディリ及び周辺地域の小学校・幼稚園で歯科健診を継続的に実施する。 3) 母子歯科保健指導教材(フリップチャート)を作成し、保健省を通じて全国のヘルスポストに配布する。その活用方法については、ヘルスプロモーション課から通達する。歯科専門スタッフが不足している東ティモールでは、助産師、保健師、栄養士などとの連携が必要である。 4) 11月に関係者を集めて、保健省主催で教材の活用を周知するワークショップを開催する。A O H P Fは母子歯科保健の講義をする講師を派遣する。WHO, UNICEFにも後援を要請する。 5) 将来的には、ADETILが保健省とともに国民の歯科保健向上のための企画立案ができるようになること、また助産師や保健師、学校・幼稚園の教師などが歯科保健教育に参加することによって、彼ら自身の力で東ティモールの歯科保健が向上していくことを目指す。 	

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容

【実施内容】

2018年は、5月、8月、11月の3回に亘って現地で活動した。「世界の人びとのための JICA 基金」の対象となった事業は8月(第13回活動)と11月(第14回活動)であったが、5年間の活動の集大成でもあった。

① 歯科医師会との協議

8月21日、東ティモール歯科医師会(ADETIL)の間でお互いの役割分担を明記したMOU(覚書)にサインした(資料1-1、1-2)。

② 小学校・幼稚園での歯科検診

東ティモールには日本の母子保健法、学校保健安全法のような法律はない。従って乳幼児健診や学校健診は行われていない。2014・15年にAOHPFが小学校・幼稚園で実施した歯科検診結果が、東ティモールで唯一の小児の歯科検診記録となっている。継続的な歯科検診によって子供たちの歯科的な課題を明らかにできるし、対策を講じる際の論拠となる。また対策を講じた後の成果の確認のためにも定期的な歯科検診は不可欠である。ADETILが自主的にモデル小学校・幼稚園で定期的な歯科検診と、そのデータ集積を行うよう協議してきた。

8月23日、ディリ市内コモロ地区のセント・ドミニク幼稚園で歯科検診を実施した。同幼稚園では2014年にも歯科検診を実施しており、4年前に比してむし歯罹患率の上昇を認めた。また女兒よりも男児の方がむし歯の子が多いことが分かった(資料2)。ADETILメンバーには検診結果の分析と改善策の立案を指導している。

③ 歯科保健教材の作成

MOUに基づき、ADETILとAOHPF双方から妊婦・母親に対する歯科保健指導のアイデアを持ち寄り、お互いの知恵を結集して24頁のフリップチャート(紙芝居)を400部作製することになった。複数の印刷所から相見積取り、担当者との間で目的、装丁等を確認し発注した。ADETILとAOHPFは、保健省、WHO、UNICEFなどとも協議を重ね、フリップチャートの趣旨を周知するために関係者を集めてワークショップを開催することとなった。

④ ワークショップの開催

フリップチャートが完成した11月14日、関係者約200人が参加してワークショップが開催された。村居が母子歯科保健の意義を講演して、ADETILのDr. Floriatiがフリップチャートの使い方を説明、助産師会のMs. Maeceから妊娠中の健康管理について講義があった。参加者からはそれぞれの立場から質疑応答があって、今後の東ティモール歯科保健について意義のある研修の場となった(資料3)。歯科マンパワーが不足している東ティモールでは、妊婦や母親と接触が多い助産師や保健師、栄養士などの協力が不可欠である。これらの職種を所轄する保健省ヘルスプロモーション課を通じて全国のヘルスポストにフリップチャートを配布し、その活用を周知することになった。JICA東ティモール事務所にも10冊寄贈し、青年海外協力隊の保健隊員に活用してもらうことになった。またWHOやUNICEFなどの国際機関の他、SHAREや地球のステージなど東ティモールで活動している日本の保健関係NPOや、オーストラリアなど海外のNPOにも配布して活用を要請した。ワークショップ当日は東ティモールのテレビ局が取材に訪れ、マスコミを通じて国民に向けて子供のむし歯予防の大切さをアピールした。

(2) 実施成果：

- ① MOUの締結：ADETILとAOHPF双方が事業目的を理解・共有し、それぞれの役割分担を文書に明記して代表者が署名した。
- ② 幼稚園歯科検診の実施：2014年に実施した幼稚園で4年ぶりに歯科検診をした結果、むし歯の子供が増加しており小児の歯科疾患予防の必要性を再確認した。検診にはADETILメンバーが参加、協力して50名の園児と家族および幼稚園の園長、教師、父兄に対して歯科保健指導を行った。同園は園長も協力的であり、今後もADETILメンバーが検診・指導を継続し、指導効果の定点観測地点としたい。なお、小学校での歯科検診は、今回学校と日程が合わず来年3月にADETILメンバーと協力して実施の予定である。
- ③ フリップチャートの作成：ADETILとAOHPFがそれぞれ原案を持ち寄り、8月に2回の会議を通じて最終的に24頁の紙芝居が完成した。最初CDによる映像での指導という提案があり、費用的にも安価であるが、映写装置を携帯しなければならず、電気のない地方もあること、また女性の識字率は低く集中力の持続時間が短いので講演形式による一方的な指導は駄目だというUNICEFやWHOの助言があり、身近な具体的事例を交えながら対面で指導する紙芝居形式が最良との結論に達した。
- ④ ワークショップの開催：事業の目的は、歯科保健指導の教材(フリップチャート)を配布することではない。ワークショップを通じて参加者には、この国で子どもたちのむし歯がどうして多発しているのか、どうしたら減らすことができるかを考えてほしい。また歯科関係者には、歯科の専門家目線ではなくコミュニティーの現場で努力している人たちの生の声に耳を傾けることを学ぶ機会にしてほしいと考えた。保健省には、関係者に歯科保健の大切さを周知し、WHOやUNICEFなどの国際機関や諸外国のNPOとも連携して、国民の歯科保健向上に取り組んでほしい旨を提言した。また、ワークショップでは、歯科保健教材作成のメイン・スポンサーとして、東ティモール事務所の永石所長に挨拶いただいた。

(3) 得られた教訓など：

東ティモールは16世紀初頭にポルトガルの植民地となり、以来、2002年に完全独立するまで第2次大戦中の日本軍占領、1970年代のインドネシア軍の侵攻と独立に至る紛争、更にその後の内戦などで多くの国民の血が流され、不幸な歴史を辿ってきた。独立後15年を経過したが、政治・経済の混乱は未だに続いている。産業が育っていないため若者の就職先がない、ティモール海の海底油田探掘権収入が国庫に入るが、独立紛争に参加した退役軍人の年金ぐらしか国民に還元されず不満が高まっている。一昨年11月、国会で内閣不信任動議が可決されて国会が解散した。半年の空白を経て昨年8月ようやく総選挙が行われたが、未だに保健大臣が不在で現場の担当者も政策立案・執行ができない状態が続いている。後発開発途上国(LDCs)では単に専門分野の知識・経験だけでは成果を上げることはできない。政治経済分析を含む幅広い視野と問題解決能力や交渉能力などが必要で、NGO活動の難しさを改めて学ばせてもらった。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

AOHPF は、東ティモールでの活動を5年で一区切りと考えて活動してきた。今年度はその5年目にあたり、これまで築いてきた人間関係や情報収集などの積み重ねの結果として一応の成果を上げることができた。AOHPF は会員70名ほどの小さなNGOで現地事務所がないため、現地との連絡調整など含めて会員管理など全ての事務作業を私1人でやりくりしてきた。これまで約30年間に亘ってアジアの国々で歯科保健の政策立案や人材育成をメインに支援を続けてきたが、私は昨年76歳になり、今後の積極的な途上国支援は難しい状態となっている。東ティモール歯科医師会(ADETIL)には、彼ら自身の努力・工夫で小学校・幼稚園での歯科検診や妊婦・母親への歯科保健指導を通じて問題解決のための活動を継続してほしい。そのための作業計画の立案などはインターネットを通じてアドバイスできるだろう。ADETILメンバーが国民から評価や尊敬を得るためには、自ら汗をかかねばならないことを今回のJICA基金活用事業を通じて繰り返し話してきた。これは歯科保健に限らず、政治、経済、産業振興など全ての分野で東ティモール国民から求められていることでもある。彼らの努力を期待しながら見守っていきたい。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

東ティモールの課題が、政治・経済など国としての基本的な部分にあることは既に述べたが、国のリーダーシップをとる人材不足にあることも否めない。官僚が縁故関係による採用が多く、有能な人材が国内で就職できずに海外流失してしまうという話も聞いている。仕事をてきぱきとこなす人材が排斥され、「悪貨が良貨を駆逐する」傾向があるらしく、われわれ外国人が踏み込むことが難しい国民性とも向き合わねばならない。

保健医療協力は、相手国での医療援助を通じて支援するケースが多い。アピール度も高く、人々の評価も得られる。すぐ隣のオーストラリアからは歯科関係NGOが入って巡回診療や地方の病院・ヘルスセンターに器材供与をしている。しかし、国も歯科医師もそれを当てにして、自分たちで多発している歯科疾患の原因調査を行ったり、予防のための施策や予算獲得の努力をしなくなる。ボランティア活動は、ともすればする側の自己満足に終わって、その国の真の自立に繋がらない。

AOHPF は、政策提言と人材育成を主目的にこれまでアジアの国々で活動し、成果を上げてきた。そのためには事業のカウンターパート(相棒)が不可欠で、東ティモールではその点で苦勞した。当初は保健省と直接交渉をしたが政権がコロコロ変わり、5年目によく歯科医師会(ADETIL)と覚書を交わして、歯科保健教材(フリップチャート)を作成する協働作業を通じて、率直な意見交換ができるようになった。歯科医師会をカウンターパートとして育て、彼らに自分たちの手で国の保健医療を改善していく喜びを体験させたいと考えている。

AOHPF は、昨年9月日本歯科医師会に交渉して、アルゼンチン・リオデジャネイロで開催された世界歯科医師会大会(FDI)に東ティモール歯科医師会代表を派遣する費用を捻出してもらった。派遣されたDr. Floriati は最新の歯科医学の情報を学び、ポルトガル圏歯科医師会をはじめ世界各国の歯科医師会との交流をして多くの成果を持ち帰った。彼らには、今後自分たちの力で世界への扉を開いてほしい。

昨年10月にJICAが東ティモール政府との間で締結した人材育成奨学計画(JDS)についても、東ティモール事務所より情報をいただいたので、今後この国の衛生行政人材育成に活用させていただきたくその橋渡しを考えている。

(2) 活動の写真 (別紙)

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで、団体の成長につながった点・良かった点

今年、JICA 基金活用事業に申請し、東ティモール「小児むし歯予防プログラム」へのご支援をいただいたことを心より感謝しております。会員70名ほどの小さなNGOで、これまで全てのマネジメント作業を1人でやってきて、また補助金を受けることもなく全て会員による会費と寄付、自己資金の範囲内で可能な支援活動を行ってきました。JICA 国内事務部寄付金事業問い合わせ窓口スタッフの方々に報告書類の作成について、さまざまお世話になりました。有難うございました。

(別紙) 活動の写真



東ティモールの歯科保健向上を目指す MOU(覚書)を締結した。(2018.8)



フリップチャートは、AOHPF と ADETIL メンバーが協議を重ねて完成した。



ディリ市内 St. ドミニク幼稚園で 4 年ぶりの歯科検診。3-6 歳児のむし歯は増加していた。
(2018.8.23)



検診が終って子供たちと記念写真。



子供たちの口の中は課題が一杯だった。



ワークショップの受付に並ぶ参加者。約 200 名が参加した。(2018.11.14)



主催者が勢揃いして、完成したフリップチャートを披露した。



主催者挨拶。左から ADEIL の Teresa 会長、WHO ・ Rajesh 所長、JICA ・ 永石所長。



村居による母子歯科保健の講義。



熱心に聴講するワークショップ参加者。



テレビ局による取材を受ける。



日本大使館にて南大使に活動の報告。



完成したフリップチャート。折り畳み式・三角スタンドで持ち運び便利。



保健大臣 Dr. Araujo と面談
(2017.10.4)



妊婦・母親に歯科保健指導
(Bairo Pite Clinic, 2017.10.3)